

福祉サービス第三評価結果の公表ガイドライン

① 第三者評価機関名

NPO 法人 未来 鳥取県倉吉市東仲町 2571 番地

② 施設・事業所情報

名称：浜坂江津クローバー保育園	種別：保育所
代表者氏名：大久保 貴世	定員（利用人数）： 60（27）名
所在地：鳥取県鳥取市江津 1258 番地	
TEL：0857-30-7222	ホームページ：http://clover-hoikuen.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2018 年 4 月 1 日	
経営法人・設置主体（法人名等）：(株)クローバーホールディングス	
職員数	常勤職員： 9 名 非常勤職員 4 名
専門職員	（専門職の名称）保育士 8 名 保育士 1 名
	支援員 1 名 支援員 0 名
	調理員 3 名
施設・設備 の概要	（居室数） 8 室 （設備等）空調
	保育室、ほふく室、調理室、トイレ、教材庫

③ 理念・基本方針

<p>○のびのびと生活する中で好きなことをもっと好きに ○自分らしさを大切に ・四季を感じながら色々な体験をします・個性を大切にします・色々な人とかかわる中 で心の育ちを大切にします</p>
--

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体の保育計画を実施する ・子どもたちひとりひとりの「すき」を見つけて伸ばす保育 ・肯定的な言葉かけの実践 ・働きやすい環境づくり
--

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 30 年 9 月 3 日（契約日） ～ 平成 31 年 3 月 15 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 3年間という短期間に小規模認可保育所や企業主導型保育所等10園以上開設し、幅広く保育事業を展開し、地域保育の対応に貢献している。
2. 職員一人ひとりが理念・基本方針に基づき、子どもたちがのびのびと生活でき、個性を伸ばせるよう取り組んでいる。
3. 本部は“人を大切にす”会社でありたいというビジョンがある。残業ゼロ、有給休暇取得100%等を目指し、変形労働時間制の導入など多様な働き方への理解を通じて従業員満足度の向上、地域の雇用拡大に貢献できるよう努力している。
4. 労務管理は基本的に本部で集約し、勤務表の作成、出勤簿、休暇届等の管理は各園でタッチパネルを使用して管理している。総合的に連携を図ることで、統計による現状分析や課題の把握につながっている。
5. 保育記録のほとんどは「チャイルドケアシステム」を導入して電子化され、正確な情報を時間内に入力し、職員間でいつでも共有でき、業務の軽減につながっている。
6. 感染症予防の対応マニュアルに沿って手洗いうがいを習慣づけ、園ではペーパータオルを使用している。また、次亜塩素酸電解水による清掃・除菌を徹底している。嘔吐物処理訓練を毎月行い、急な対応に備えている。

◇改善を求められる点

1. 系列の保育園は県内では現在10園であり、本部が運営や経営を統括している。職員の人材確保や保育人数に流動的な側面があるが、それぞれの園においても3年～5年先の将来ビジョンを見据えた単年度計画を策定することで、さらに具体的な計画になることを期待する。
2. 事務処理の電子化を取り入れ、効率化を図っているが、職員全員が同じレベルで操作できるよう取り組みを期待する。
3. 年1回、保育実践についての職員の自己評価及び個人面談を実施し、人事考課を行なっているが、職員の自己評価結果を一層活かせるよう期待する。
4. 本部の教育責任者が年間研修計画を管理している。保育園の目的を明確にし、体系化された研修計画を期待する。また、機会あるごとに園内研修として還元してほしい。
5. ホームページ、フェイスブックで組織や理念、保育方針や内容を公開しているが、運営の透明性を図るためにも事業計画・事業報告・財務報告等、一層の情報公開を期待する。
6. 保育台帳は鍵をかけ、保管されているが、記録の電子化による情報の保持等さらに体制の整備を望む。
7. 園の行事は近隣住民へ呼びかけているが、地域に園を開放したり、連携する取り組みは少ない。地域との連携が進む取り組みを期待する。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度第三者評価に入っただいたことにより、園の課題がより鮮明に見えてきた。今後の課題として、

- ・地域との連携
- ・事務仕事内容（システム管理内容・指導案の検索、入力等）を全職員へ周知徹底

- ・ 支援児への対応、関係機関との連携など全職員への共通理解
- ・ 園児の着替えの配慮について

等、来年度新たに職員や園児が増え、より職員間の報・連・相が重要になってくるため、来年度向けに立案した年間計画を実行し、細やかな連携に努めていくことで、職員の意識向上と親子の支援がより良いものとなっていくよう努めていきたい。

⑧第三者評価結果

以下の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果

※すべての評価細目（45項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	③・b・c
<コメント> 入園のしおりや事業概要その他契約書類に理念・基本方針を明文化している。また、ホームページでも公表している。一人ひとりが理念、基本方針に基づき子供達がのびのびと生活でき個性を伸ばせるよう取り組んでいる。入園時には保護者へも説明している。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・③・c
<コメント> この3年で幅広く保育事業を展開し地域の保育に対応している。今後さらに具体的な福祉計画や保育ニーズを把握し、行政等関係機関や、他社との情報交換に努め、経営の安定に努めてほしい。		
③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・③・c
<コメント> 系列の保育園は現在、県内で10園あり、本部が運営や経営を総括している。経営課題は①人材確保及び育成②財務管理の二点を挙げ、職員による保育士等紹介制度の導入や保育士フェア等への積極参加、キャッシュフロー表の作成及び評価等を実施している。さらに、保育園の経営課題の把握に今以上努めてほしい。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・◎
<p><コメント>本部として、“人を大切にする”会社でありたいと考えている。残業ゼロ、有給休暇取得100%等を目指し、変形労働時間制の導入など多様な働き方への理解を通じて従業員満足度の向上、地域の雇用拡大に貢献できるように長期的な計画を策定中である。現場としては、園独自の、中・長期的な計画は周知されていない。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・◎
<p><コメント>主に法人全体の3年収支予算計画、単年度及び中期的な収支計画、園児受け入れ計画等を作成している。しかし、人材確保に流動的な側面があることから不定期に見直しを実施している。それぞれの園においても3年～5年の将来ビジョンを見据えた単年度計画を策定することで、さらに具体的な計画になることを期待する。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・◎
<p><コメント>本部においては保育事業運営における経理事務はデジタル化が進み、正確な事務作業システムを導入している。今後は事業計画改善のための仕組みを構築し、職員と共有化を図れるよう整備してほしい。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a・b・◎
<p><コメント>本部が主に事業計画を策定している。園として、事業内容について職員の理解促進に心掛けているが十分でない。また、保護者会等での周知理解促進に努めてほしい。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・㊦・c
<p><コメント>現在年1回保育実践について自己評価を実施し、職員には個人面談を行って質の向上に努めている。今回の第三者評価が初めての受審であるが、これを機会に組織的な評価を行う体制の整備を期待する。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・㊦・c
<p><コメント>職員の自己評価結果や今回の評価結果により課題を明確にし、それを職員全体で共有して、組織的・総合的に取り組んでほしい。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント>法人本部の組織及び役割と責任は明確になっている。園長は園だよりや職員ミーティング等で理念や方針を伝え、課題については職員の協力を得ながら取り組んでいる。有事の際や不在時のなどの役割と責任について組織としてさらに明確な態度表明を期待する。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント>本部として、園長会で管理者の心得や園内研修、保育の見直しなど検討し、取り組んでいる。園長は職員に対し、社会的ルールや倫理を含め遵守すべき法令等を十分理解できるよう取り組んでほしい。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント>園独自で保護者アンケートを実施し、職員会議等で改善に向けて話し合い、安心して子供を預けられる保育の向上を目指している。また、保育計画の評価と課題を把握し実際の保育現場において助言している。更なる指導力を期待する。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント>本部は、経営の改善や業務の実効性を高めるために、職員が働きやすい環境を検討し、働き方改革に積極的に取り組んでいる。保育環境面としては、園庭の整備、特に砂場の必要性は十分理解しているがコストの問題もあり今後の課題である。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・c
<p><コメント>・人事については、本社が行っている。園独自でも必要な福祉人材についての把握をし、質の高い保育になるよう本社との連携を図るよう期待する。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・b・c
<p><コメント>総合的な人事管理になるよう本部が集約している。本部としての人事基準が定められ、職員への周知が図られる必要がある。園独自でも必要な福祉人材について把握し、職員個々の働き方や処遇改善について本部との連携を期待する。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		

16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・⑥・c
<p><コメント>労務管理は基本的に本社で集約している。シフトの作成、出勤簿、休暇届け等の管理は園で業務分担票を用いて、管理できている。人材の確保定着の観点からさらに働きやすい職場環境について今後も本部との連携を期待する。</p>		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・⑥・c
<p><コメント>本部と連携し年2回個人面談を実施している。園の理念・基本方針に基づき職員個々に沿った育成を計画的に支援できるよう期待する。</p>		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・⑥・c
<p><コメント>本部の教育責任者が年間研修計画を管理している。キャリアアップ研修、スキルアップ研修などにできるだけ参加できるようにしている。</p>		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・⑥・c
<p><コメント>本部が計画を立て、職員の専門資格や技術の向上につながるよう、スキルアップ研修、キャリアアップ研修に参加を促している。できるだけ多くの職員へ研修の参加を奨励し、次の研修の成果に繋げてほしい。</p>		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・c
<p><コメント>実習生の受け入れについては実績がない。受け入れマニュアルも整備されていない。今後は、保育専門職の研修・育成への協力は社会福祉法人の責務の一つであるという観点から、要請があれば受け入れ可能な体制の整備が必要であろう。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント>保護者に対しては園のしおり、重要事項説明書等で理念・基本方針、保育内容を公開している。その他ホームページ、フェイスブックで保育内容を公開しているが、運営の透明性を図るためにも事業計画・事業報告・財務報告等、情報の公開を期待する。</p>		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント>年1回の県の監査をうけ、また案内に応じて県や市の訪問実施による公開保育、学習会に参加している。今後は、事務・経理・取引などに関する内部監査の実施、また、必要に応じて外部監査を行うことが望ましい。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント>散歩や行事で近くの老人施設や商店と交流し、勤労感謝の日のプレゼント作りをして、届ける等の取り組みをしている。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a・b・c
<p><コメント>受け入れに向けてのマニュアル化を期待する。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・b・c
<p><コメント>園長会、地域の防災研修会に参加している。また、近隣の交番の協力を得て、交通安全教室を行なうなど、福祉施設等関係機関と連携できている。さらに連携を広げてほしい。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a・b・c
<p><コメント>保育園としての機能を生かし、地域に還元できるよう努めてほしい。</p>		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・c
<p><コメント>地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取り組みを行っていない。様々な関係機関と連携し、地域のニーズの把握に努めてほしい。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント>入園前の面接で丁寧に説明し、保護者の理解を得ている。職員も一人ひとりに寄り添った保育を目指し取り組んでいる。園内での勉強会・研修を実施して、サービス提供についての共通理解の取り組みを期待する。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a・b・c
<p><コメント>子どものプライバシー保護と虐待防止に関するマニュアルを整備し、入園時に保護者から確認している。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		

30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	㉑・b・c
<p><コメント>ホームページ、フェイスブックなどで園の情報を公開している。見学は随時受け付けていて、いつでも見学出来るようにしている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a・㉑・c
<p><コメント>年間指導計画、月間指導計画と計画の沿った保育を行っている。また、内容変更の場合は、再度説明を行い、同意を得ながら進めているが、さらに、わかりやすい説明を期待する。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a・㉑・c
<p><コメント>変更があった場合は保護者の了解を得て必要な情報提供を行っている。卒園後も行事の案内をして参加できる仕組みにしている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取り組んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント>アンケートの実施や意見箱の設置など気軽に意見を聴ける環境づくりを考えている。年2回の個人懇談で要望などを保育に反映させている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・㉑・c
<p><コメント>苦情解決責任者及び苦情受付窓口を設置して、苦情に対して必要な措置を講じる仕組みが出来ている。連絡帳でのやりとり、日々のコミュニケーションを大切に、アンケートや意見箱の内容を周知し改善、解決に努めている。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a・㉑・c
<p><コメント>年2回の懇談会、毎月の行事の参加呼びかけ、随時保育見学など園の様子を公開し、利用者の相談や意見が述べやすい環境を整備している。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・㉑・c
<p><コメント>担当が窓口になり、送り迎えの時や、連絡帳での相談や意見を受け、丁寧に対応している。また、保護者向けアンケートや意見箱を活用し、管理者に繋げている。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・㉑・c
<p><コメント>園長、主任はリスクマネジメント研修に参加し、責任をもって職員へ伝達し、ヒヤリハット報告・事故報告を記録し、全体で共有している。週に一度施設点検を行っている。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保の	㉑・b・c

	ための体制を整備し、取組を行っている。	
<p><コメント>・感染症予防のため手洗いうがい習慣づけ、手拭きタオルの廃止、次亜塩素酸電解水による清掃・除菌を徹底している。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント>年間計画を立て避難訓練（火災・地震・不審者対応）を毎月実施している。備蓄等の準備がまだなされていない。また、不審者対策の防犯グッズの整備を望む。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a・b・c
<p><コメント>重要事項説明書の内容を説明の上、入園時に同意を得ている。また、玄関にサービス案内板を作成して、サービス内容を掲示し提供している。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント>ミーティングでマニュアル研修を行い、月案・週案・経過記録などを共有し、見直しをはかっている。職員や保護者等からの意見や提案をさらに反映できるよう期待する。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a・b・c
<p><コメント>指導計画にそって情報共有をし、個別対応が必要な場合は懇談等で保護者と話し合ったり、専門機関へ相談したりして、支援困難ケースにも皆で取り組んでいる。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p><コメント>毎月の月週案作成時に一人ひとりの園児に沿った指導計画になっているか担任、園長等で確認し、半期終了後に後半の指導計画を見直しているが、評価・見直しをする時期を検討している。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a・b・c
<p><コメント>家庭状況確認表を作成し、職員全体で把握できるよう努めている。個別の指導計画に沿って実施された保育が子ども主導であるのかを話し合っているが、適切に記録されていない。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p><コメント>個人情報記載してある資料等は、鍵付きの書庫に管理されている。入園時に個人情報取り扱いについての説明と同意を得ている。文書管理のルール化を望む。</p>		

福祉サービス第三者評価報告書 (内容評価基準—保育所版—)

浜坂江津クローバー保育園

A-1 保育内容

評価項目	第三者評価結果	判断理由
A-1-(1) 保育課程の編成		
① A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・b・c	クローバー保育園全体の理念を基に年間及び月案の計画を立て、その都度ミーティングや計画案作成時に意思統一を図り日々の保育に努めている。さらに、地域の実態、子どもの家庭の状態等ひまえ、長期的な見通しをひまえた保育課程の編成を望む。
② A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・b・c	室内の環境が整備され、子どもが心地よく過ごせる環境である。職員配置や遊びの状況を考えながら、その都度改善出来ている。今後予定されている砂場等の整備を期待する。
③ A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもも受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・b・c	面談時に丁寧な聞き取りをし、一人ひとりに配慮した保育を行っている。また家庭と連携しながら支援が必要な子どもが多い為、専門機関との連携を取りながら支援を進めている。
④ A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・b・c	決まった場所で食事・排泄・手洗い・午睡が出来るよう環境を整え、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重し、日々の繰り返しで生活習慣が身に付くよう支援している。部屋での更衣時の羞恥心への配慮を期待する。
⑤ A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・b・c	子どもの「好き」に気づき、発達を踏まえながら、興味や遊びが広げられるよう環境づくりに取り組んでいるが、まだ備品等において課題が残る。近くの公園に出掛け、地域の人と出会ったり、車の走る道の歩き方も学べている。
⑥ A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と保育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c	継続的な関わりを持ち愛着関係が築けるよう担当制にし、一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりを行っている。また発達の差が大きい年齢なので、個々に即した指導計画を立て実践している。
⑦ A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と保育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c	連絡帳を見て、家庭での様子にも気を配り、安心して過ごせるようしっかりと甘えを受けとめたり、好きな遊びが見つけれられる環境づくりに心掛けている。保育士同士で情報を確認しながら、保育内容にさらに配慮できるよう努めている。
⑧ A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と保育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c	様々な支援が必要な家庭が多く、一人ひとりの思いを受けとめ情緒の安定を図るよう取り組んでいる。情緒の安定と共に友達との関わりが見られだし、保育の展開も少しずつ広がりがつある。
⑨ A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c	軽度の知的障害がある子どもを、途中転園で受け入れた。見学の時から、当園の保育理念や取り組みを伝え、保護者の思いと重ねながら対応している。その都度、専門機関と連携しているが、全職員への共通理解が不十分である。
⑩ A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c	職員シフトを考慮しながら、出来る限り朝夕の保育は年齢ごとに好きな遊びがしっかりできるように心掛けている。全員が1部屋の集まってからも、家庭的でゆったりと過ごせる環境に配慮しているが、指導計画に位置付けるなど工夫が必要である。

⑪	A-1-(2)-⑩小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・㉖・c	今年度は、年長児がいないが、経過記録等で継続的な関わりが出来るよう準備している。今後、近隣の保育園や小学校と連携を図っていく予定である。
⑫	A-1-(3)-①子供の健康管理を適切に行っている。	㉗・b・c	身体測定実施、測定曲線の作成、保健だよりの発行。また、日々の連絡帳や送迎時に家庭との連携を図り共に子どもの健康管理に努めている。職員間で情報共有できるよう視診表や朝礼ノートを活用している。
⑬	A-1-(3)-②健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させている。	a・㉖・c	健康診断を年2回、歯科検診を年1回行い、保護者にも伝えていく。保育に反映させているが、結果後の様子を把握し、記録や保存について工夫してほしい。
⑭	A-1-(3)-③アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・㉖・c	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて入園時に診断書を提出してもらっている。食物アレルギーに対応するため、アレルギー食品を使わない給食を提供している。
A-1-(4) 食事			
⑮	A-1-(4)-①食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・㉖・c	季節や行事で野菜の切り方や盛り付け方を工夫し、目でも楽しめる給食提供を行っている。天気の良い日などは子どもたちからのリクエストでテラスで食べることもあるが、0,1歳児の取り組みはあまりできていない。
⑯	A-1-(4)-②子どもがおいしく安心して食べることができる食事を提供している。	a・㉖・c	系列保育園の栄養士が献立を作成し、旬の食材や地元の食材を使ったメニューを提供している。食物アレルギーに対応するため、一律に使用食品に制限を加えているが、おいしい食事と栄養面から、さらに検討を期待する。

A-2 子育て支援

評価項目	第三者評価結果	判断理由	
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
⑰	A-2-(1)-①子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・㉖・c	入園時の面談票を把握しながら、日々の興味や成長について送迎時の会話や連絡帳を活用して、あそび、食事、睡眠の様子などを共有している。
A-2-(2) 保護者等の支援			
⑱	A-2-(1)-①保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・㉖・c	園だよりやクラスだより、献立表などを配布し、園での様子を伝えている。迎えの際に1日の様子を話したり、個人懇談の実施、行事後のアンケート実施、意見箱を設置して、意見・要望、相談がしやすい環境を整えている。
⑲	A-2-(1)-②家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・㉖・c	虐待防止マニュアルを作成し職員間で研修している。虐待等権利侵害の早期発見、早期対応できるよう、予防的な保護者支援についても、職員に継続的意識付けに努めてほしい。

A-3 保育の質の向上

評価項目	第三者評価結果	判断理由	
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)			
⑳	A-3-(1)-①保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・㉖・c	毎月のミーティングや振り返りシートを活用したり、年1回自己評価を実施している。具体的な改善策については、指導案の評価反省のみで、具体的な課題が明確化されていない。課題の流れがわかる書式を作り、本社と相談しながら他の園と共に解決に向けての取り組みを期待する。